

共通開講科目(アオッサ)「歴史」のトリビア(歴史文化論から歴史教育まで)／福井大学

科目名/提供大学名	「歴史」のトリビア(歴史文化論から歴史教育まで)／福井大学
科目名(英文)	Trivia about History : From Introduction to History to History Education
対象学年	原則として、全学年。
開講時期	後期・水曜4限目
単位数	2単位
科目区分	選択(教養教育科目群:「歴史・文化理解分野」)
授業形態・開講形態	講義と演習
担当教員名	中切 正人
オフィスアワー	福井大学 アドミッションセンター 2階:研究室, 火曜日～金曜日(10:00～12:00)
教員メールアドレス	nakagiri@u-fukui.ac.jp
概要	「歴史とは何か?」を基本テーマに、歴史教育の視点から歴史を考える。分析対象は、1930年代ドイツの教育システムと、牧畜文化・宗教・地理的観点から見た歴史像である。そこに、大学入試の国際比較と地域の歴史教育の視点を加える。
学習・教育目標との関連	各大学の目標との関連は、科目の提供大学側では書けないと思われます。
授業目標・目的	「社会のグローバル化や知識基盤社会に対応できる総合的な判断力」を養成することを目的とする。その大きな目的に寄与する具体的な目的として、本講義は、資料を適用しながら「コミュニケーションに正しい」歴史認識を理解するという目的を設定する。そして、その目的に向けて、まず、学校の時間割という身近な視点に立って、史資料を適用しながら、1930年代のドイツと今日のわが国の教育システムを比較し、分析し、評価する能力(歴史的思考力)の育成を目標とする。次に、農耕・牧畜文化、宗教、地理などの多様な分析の枠組みを援用しながら、東西の歴史事象を比較し、分析し、評価する能力(歴史的思考力)の育成を目標とする。さらに、講義全体を通して、日米欧の歴史教育を比較する観点(大学入試制度や試験問題の国際比較等)と、史学史の観点(地域から見る歴史、ナショナリズムやグローバリズムから見る歴史)を挿入することによって、わが国の歴史教育に対する理解を深めることを目標とする。
身につけることを目指す社会的・職業的能力(汎用的能力)	<input checked="" type="checkbox"/> 自他の理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーション能力 <input type="checkbox"/> 情報収集・探索能力 <input type="checkbox"/> 社会・職業理解能力 <input checked="" type="checkbox"/> 役割把握・認識能力 <input type="checkbox"/> 計画実行能力 <input type="checkbox"/> 選択能力 <input checked="" type="checkbox"/> 課題解決能力
学生の目標・到達目標	歴史学習(歴史教育)は、教科書(授業内容)の丸暗記ではなく、ある史実がわれわれに認識されたり、他の史実と関連して解釈されたりしてきた歴史像を理解することを一つの目標としている。その目標に向けて、①史実(ナチスのカリキュラム)が認識される過程を理解すること、②これまで学んできた史実を大きな枠組みの中で再認識すること、③地域に根差した教育を前提とした上で今後のわが国の歴史教育の方向性を提起できること、を到達目標とする。
授業計画・授業内容	<p>長らくわが国の中高の歴史学習(歴史教育)においては、教科書(授業内容)の丸暗記がなされてきた。そこで本講義では、本来の歴史学・歴史学習(歴史教育)には、他の史実を捨象しながらある史実を認識したり、他の史実と関連して解釈された歴史像を認識したりすることが含まれること、を理解するところから始める。</p> <p>第1回:「本講義の導入」本講義の目的・目標、本講義の概要説明、「2050年の未来の時間割作成」の資料解説。 第2回:「本講義のシミュレーション体験」グループワークⅠ:「2050年の未来の時間割作成」とプレゼンテーション。 第3回:「歴史創造のシミュレーション①」覚える歴史から考える歴史へ導く「アイヒマン実験」。 第4回:「歴史創造のシミュレーション②」20世紀の映像から学ぶ1930年代のドイツの特色(1)。 第5回:「歴史創造のシミュレーション③」20世紀の映像から学ぶ1930年代のドイツの特色(2)、グループの結成。 第6回:「歴史創造のシミュレーション④」グループワークⅡ「1930年代のドイツの中学校の時間割作成」。 第7回:「歴史創造のシミュレーション⑤」グループワークⅢ:各グループのプレゼンと他グループによる評価。 第8回:「歴史創造のシミュレーション⑥」シミュレーションの意図と背景(英の歴史授業の分析)、課題レポートA。 第9回:「歴史とは何か①」グループワークⅣ「戦争と平和:戦争論と平和論から見た歴史認識(1)」。 第10回:「歴史とは何か②」グループワークⅤ「戦争と平和:戦争論と平和論から見た歴史認識(2)」。 第11回:「ある歴史の断面①」グループワークⅥ「農耕が先か牧畜が先か①」、課題レポートB。 第12回:「ある歴史の断面②」グループワークⅦ「農耕が先か牧畜が先か②」:農耕文化論と牧畜文化論。 第13回:「ある歴史の断面③」牧畜文化論から見る歴史の断章①:わが国に根付かなかった牧畜文化。 第14回:「ある歴史の断面④」牧畜文化論から見る歴史の断章②:宗教と政治制度を分析する視点。 第15回:「ある歴史の断面⑤」グループワークⅧ「歴史・歴史学・歴史教育から学ぶこと」、課題レポートC。</p>
授業方法	第1回から第8回で実施するグループワークでは、事前に配布される資料や、講義の解説・資料などがグループワークの素材となる。それらの資料や解説の内容を受講者が吸収した上でグループワークが展開され、指示されるテーマについて論じ合ったり、その成果を発表し合ったりする。第9回から第14回で実施するグループワークでは、パワーポイントに示される資料や配布される資料を元に、指示されるテーマを論じたりプレゼンしたりする。グループの結成には、性別、学年、学部(学科や専攻)、出身地(都道府県や所属大学等)のバランスが考慮される。受講生は、グループワークの成果や課題等について、当日渡される資料や講義の際に渡されるノートにまとめる必要がある(ポートフォリオ)。それらは、第8回、第11回、第15回にそれぞれ指示される課題レポートを作成する際の資料となる。場合によっては、それらの資料やノートの提出を求める場合がある。なお、グループワークは互いに活動を評価し合う教育実践の場でもある。それを通して、歴史教育における教育評価を学習する機会を兼ねている(評価の対象)。
キーワード	歴史学、歴史教育、地理教育、教育評価、高大接続
教科書	特に教科書はない。各授業に必要な資料等は事前に配布する。
参考書	小田中直樹(2004)『歴史学って何だ?』PHP新書286。
評価方法・評価基準	<p>①講義への出席は11回以上を必要とし、出席回数は評価の対象となる【30%】。 ②グループワークへの取り組み状況や、講義中あるいは講義後の質問等を評価の対象とする【合わせて10%】。 ③第8回終了時と第11回終了時と第15回終了時にそれぞれ課されるレポートを評価の対象とする【合わせて60%】。 ④講義で配布される資料・ノートに記録された内容や、小課題への取り組みを参照する(評価の対象とする場合がある)。</p>
関連科目	歴史学、歴史教育、教育学、教育社会学、教育方法、教育評価、
履修の要件	主体的に歴史から何かを学ぼうとする人、歴史の面白さを伝えることに関心のある人
必要な事前・事後学習	毎回の講義で指示する。グループワークの成果や課題等について、当日渡される資料や講義の際に渡されるノートにまとめる必要がある(ポートフォリオ)。
その他・注意事項	<p>①講義内容に対する質問や意見等は積極的に評価される。 ②資料読解等、必要とされる課題や作業をこなしたうえで出席すること(評価の対象)。 ③グループワークでは積極的に意見交換し、自己の見解や他人の意見をノートに記録していくこと(評価の対象)。 ④グループワークのプレゼンテーションや、他グループへの質問等も評価の対象となる。</p>